

中信美術会会報 NO.27

2013.11.30

発行/中信美術会・林宣孝 中信美術会事務所：〒399-8301 安曇野市穂高有明1689-6 矢野口靖方

第66回 中信美術展開催

6月29日(土)～7月7日(日)



於：松本市美術館



変わる中信美術展の会期

第66回中信美術展覧会運営委員会委員長
中信美術会委員長 林 宣孝

昨年より中信展の来場者に渡される目録は、審査講評と共にA4サイズ一冊に纏められ、来場者全員に無料で渡すことが出来るようになりました。これも当会が取り組んでいる改革の一環ですが、好評を頂き来場された皆さんに大変喜ばれています。

この目録の裏表紙に掲載されている歴代のポスターは、中信美術展の歴史を物語り、それはまさにサブタイトルにある「ポスターが語る66年の歴史」であります。手書きで丁寧に描かれた初期のポスターは、中信美術会草創期の希望に満ちた若い作家たちの中信美術展への熱き思いが感じられ、強く胸を打たれると共に重い歴史を感じさせられます。

その中信展は今年66回を数えました。創立以来松本市をはじめ多くの関係の方々に支えられ今まで営々として続いてきた中信展は、今大きな転換点を迎えています。この初夏の中信美術展は来

年の67回展をもって開催期間を県展に譲り、1月のお正月中信展として新たにスタートすることになります。創立以来長い間親しんできた初夏の中信展、愛惜の念は捨てきれませんが、2年後の68回展からはお正月中信展として決意も新たに取組むこととなります。

中信美術会ではこのお正月中信展を中信美術会発展の契機と捉え、昨今表現方法が多様化し、従来の日本画・洋画・彫刻・工芸の4部門のジャンルでは収まりきれない作品が多く見受けられる状況にも思いを寄せ、この広がる表現の多様化にも対応すべく将来像を見据えた検討を専門の委員会を立ち上げて進めております。今から2年後に迫るお正月中信展、一昨年正月に松本市美術館で開催された64回県展の成功もあり、会員の皆様の英知を結集して魅力あるお正月中信展になるよう取り組んで参りたいと考えております。

中信美術会50年記念誌の巻頭言に「純粋に美の探求をめざそうとする大いなる理想」と「新しい時代における本会の使命に思いを馳せ」という一節があります。中信美術会創立66年、先人の掲げたこの理想と使命、そして初期のポスターに見られる創立当初の若き作家たちの熱き思いを今しみじみと思い起こしております。

美術を動かす力

松本市美術館館長 小川 稔

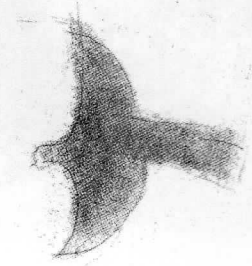
もう半世紀も前になるが初めて松本に来たときのことはよく覚えている。商売をしていた父は忙しく、めったに家族で旅行をすることなどなかったのだが父の仕事の関係先をお訪ねすることを兼ね、我が家で初めて家族旅行をすることになった行き先が松本だったからだ。父の運転する自動車でも神奈川県の実地町の町から松本まで、まだ整備されていなかった道路事情もありずいぶん遠かったことを覚えている。それだけに気候風土の異なる松本の土地と自然が子供心に新鮮に映った。以来、松本は我が家では何かと特別の場所として話題となるが多かったのだ。

不思議なご縁で今年4月から松本市美術館長を拝命することになった。早春の街を歩き、昔と変わらぬお城や雪を頂く北アルプスの山並みを見ていて当時のことが鮮明に思い出されもしたが、もちろん街は駅を中心に間違えるほど変わっている。しかし何よりうれしい驚きは松本が積極的に文化事業に取り組む都市として全国的に知られるようになっていたことだった。

赴任以来よく松本の印象について尋ねられる。ちょうどこの春開催された柳宗悦展を見、信州松本が民芸運動にいかにか深く関わったかについて考えながらある答えが思い浮んできた。柳らの運動

に賛同した松本の池田三四郎が西洋の木工家具の形や機能を重んじつつ、土地の民芸家具ならではのテイストを生み出すことに成功したことがそのよい例だと思う。西洋と東洋、外と内をほどよく調和させる特別な個性が松本平で育まれてきたといえるのではないだろうか。新しい文化に対し常に開かれていて、地域を越えて行き来することを積極的に続けた人々がいたことで戦後の松本が他所とは異なる文化的個性を獲得したことは間違いない。美術やそれ以外の文化のジャンルで努力を惜しまなかった先人たちに改めて頭が下がる思いだ。同時にこれから自分に託された美術館長としての責務をひしひしと感じている。

6、7月に開催された中信美術展を初めて拝見し、松本らしい個性がここでも感じられた。制作に熱心に取り組みながら楽しんでいる皆さんの姿勢が伝わってくる。若々しく動く力が働くかぎり作品は見る人を感動させる。ぜひともご一緒にこの動き続ける力を次の世代に伝えていきたいと願っている。



これからの中信美術会

企画構想委員会 那須 弘司

中信美術展が、平成27年度より冬季へスムーズに移行できるように目下当委員会では、検討を行っているところであります。

○現在の会計年度は、1月から同年12月末日となっていますが、毎年4月1日から3月末日とする。また、現在12月と翌年の3月に2回開催されている総会を、毎年3月、年1回とする、という方向で計画は進んでいます。その為には会則の改定も必要となります。

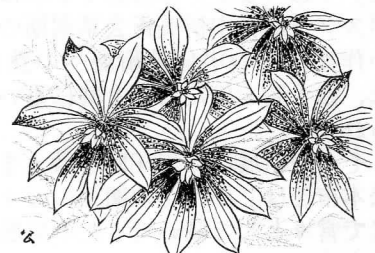
○中信美術展の今後のあり方については、近年表現方法も多様化されてきており、現代に対応するためにも、多面的な論議が大切です。

組織形態については、現在の1部～4部という枠組みをとり払い、平面・立体としたらどうか、という考えもあったが、人との繋がりを大切にするという姿勢から、現在の4部門制は変りません。

今のところ多く出されている案は、版画をもっと受け入れたらどうか、版画に限らず20号くらいの小品も佳作であるなら受け入れてはどうかなどがあります。出品規約では、現在1・2部が上限

200号以内とあるのを、特に2部においては、油彩・アクリル・版画・ミクストメディア等の画種を入れ、上限だけでなく下限も記入していく。展示スペースとして小品コーナーを設けたらどうかなど、又、高校生部門を設けたらどうかの案にはかなり前向きに進んでいます。他に新たに第5部を設け、平面、立体、インスタレーション等、規約を設けて受け入れたらという案などありますが、継続審議となっています。

○遺作展の開催計画。第67回展から第68回展の間が15ヶ月間となるため、平成27年4月～5月頃、中信美術会遺作展を開催する方向で検討されています。正式には、12月の総会において決定される予定です。



第66回 中信美術展覧会受賞者

1部 (日本画)

中信美術会賞
信濃毎日新聞社賞
A氏賞
額縁のタカハシ賞

清水美智子(一)
甕好孝(会)
中川千種(一)
細井大騎(一)

2部 (洋画)

中信美術会賞
松本市長賞
松本市美術館賞
新人賞
新人賞
松本商工会議所会頭賞
(一社)松本芸術文化協会賞
(一社)松本芸術文化協会賞
信越放送賞
テレビ信州賞
長野朝日放送賞
市民タイムス賞
テレビ松本賞
A氏賞
K氏賞
こばやし画材賞
シナノ画房賞

青柳高弘(一)
抜井美江(会)
小川耀平(会)
小瀬加奈子(一)
古瀬和貴(一)
向井和子(会)
湯川恵子(会)
長田敬之(会)
柳山千晴(一)
丸山島隆(会)
杵掛隆(会)
鈴木花奈子(一)
野田真由美(会)
池原妙子(会)
澤柳喜久子(一)
古畑睦弥(会)
浅川初幸(会)

3部 (彫刻)

松本市美術館奨励賞
新人賞
A氏賞

山崎亨(一)
西澤桂(一)
越山明都(一)

4部 (工芸)

松本市美術館奨励賞
(一社)松本芸術文化協会賞
長野県民芸協会賞
市民タイムス賞
A氏賞
K氏賞

有賀志保(会)
仙名清志(会)
木下紀子(一)
片桐秀和(一)
木村まゆみ(一)
山田聖巳(一)



視点

学芸員の日

第1部 日本画 堀井 真美

展覧会のスタートを飾る日本画部。展示室に入った瞬間から一気にその世界観に引き込まれた。一見見落としてしまいそうな何気ない風景や場面を描いた作品が多く見受けられるが、それぞれの作品からは自然豊かな信州に関わる方々だからこそ、気づき感じることのできる自然感や空気感、時間の流れなどが見事に表現されており、とても心地よく拝見させていただいた。

その中で目を引いたのは、細井大騎《本能》(額縁のタカハシ賞)。画面いっぱいに広がる花盛りを終えた向日葵。よく見ると葉にはまだ艶があり、これから美しい花が開くであろう蕾も見られ、全体的に力強い筆遣い、色遣いで描かれている。はかなくも力強い生命がこれからも連綿と続いてゆく未来を感じさせる作品である。

第2部 洋画 大西 哲理

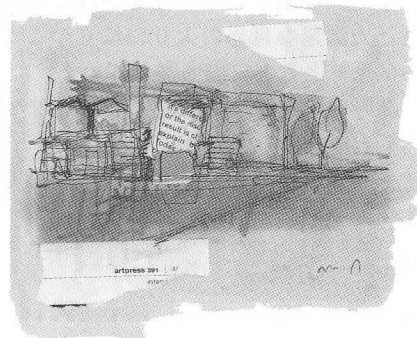
美術館の2階を埋めつくさんばかりに展示されたたくさんの作品たちは洋画に限らず、どれもそれぞれに作家の努力や工夫の跡を感じとることができた。中村石浄《望》は自然の大きさと人の小ささを思わせる素敵な作品であった。夕暮れに遠く山並みを望む二人の人は大自然の雄大さに比べてなんと小さいことか。そんな想いを抱かせる作品だ。田中紫翠《常念岳賛歌》も良かった。金色の空を背にして溢れだすような大胆な色彩で描きこまれた常念岳からは、作者の常念岳に対する想いが強烈に伝わってくるというものだ。古瀬和貴《自転車》は学生の作品だが、光を巧みに使うことによって全体にみずみずしい印象を与えている。若い皆さんにはこれからの活躍も特に期待している。

第3部 彫刻 岩垂 宏直

第三部は年々、応募者が増えていることから分かるように、勢いのある部門となっている。今回、特徴的な点は具象表現である人体像が多く出品されていることであった。

石膏やブロンズといった、無機質な素材の彫刻群に人間の温かみのようなものが感じられたのは、写実的な女性像が多かったからであろうか。会場で人体の不思議や魅力を改めて感じる事ができた。同一モデルの作品も見受けられ、それらは作者ごとの個性が色濃く、映しだされていた。

山崎亨氏《HITO 夏 2012》の人体表現は解剖学的な観点からも見事であり、対象への鋭い観察眼が感じられた。また、越山明都氏《Touch Space》の天に伸びるような抽象的な姿が印象的であった。



第4部工芸 武藤 美紀

どの分野も、会員だけでなく一般出品者にも完成度の高い作品が多く、見応え十分。他部門に比して、昨年よりも作品の搬入数が増えているとのことで、今後の期待も大きい。今回は漆の作品に興味深く拝見した。抽象的造形の流れるようなラインも魅力的だが、絵画的趣向の作品も増えている。片桐秀和《雨音》は石畳を悠然と歩く猫を見下ろす視線を円盤上に表現。レンズを通して見ているような感覚が面白い。一方、今回も出品の多かった陶芸では、陶器のオブジェ高木初見《凜雪》に惹かれた。アルプスの頂を思わせる上部の造形、雪をイメージしたであろう乳白色、その奥から微かに息吹きが感じられる。陶芸は学生の出品も多い。大作に挑もうという心意気が素晴らしい。



平成25年度 新会員おめでとうございます

1部(日本画)	山田京子			
2部(洋画)	青柳高弘	大原貞子	岡本綾子	栗幅佳代子
	佐藤豊子	澤柳喜久子	中沢美恵子	濱本ゆり子
	原田正	二木眞三郎	北條知世	山浦廣海
	○やまぐちかずお			○印は復帰
3部(彫刻)	丸山と志江			
4部(工芸)	奥寺翠	木下紀子	古屋洋子	

会員に推挙されて

1部 山田京子

今回、中信美術会の会員に推挙されて光栄に思っております。

今後も、自分の目標に向かって、絵を描き続けていきたいと思っております。

わくわくする出会い

2部 青柳高広

絵を描き始め良き師と沢山の良き仲間に出会うことができました。

人は必要な時に必要な人と出会うといわれますが、この出会いは私の人生の大きな財産となりつつあります。

また、絵画という生涯をかけても探究しきれないほどの深遠な世界の入り口に立つことができ、私の心は恐怖と歓喜に満ち溢れています。

深呼吸をし、素敵な絵の世界にまずは「ありがとう」と感謝をしました。

そして、これから始まる挑戦にわくわくしています。

新会員となって

2部 大原貞子

この度会員に推挙されて光栄でございます。

軽い気持ちで始めた水彩ですが描く程に水と絵の具にふり回され無駄な枚数を重ねております。

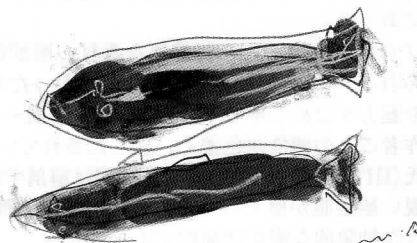
これからは皆様のご指導を受け「楽しく描く」を学びたいと思っております。

新会員となって

2部 岡本綾子

旅先ですらすらと描けたらいいなという思いで、水彩画を習い始めました。そこで中信展を知りました。5回目出品期限をうっかり逃がし、また一から始め、この度会員に推挙いただき、新会員となりました。現場で描く事を楽しみにしながら、大きな絵にも挑戦してゆきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

新会員のことは



新会員になって

2部 栗幅佳代子

今回、中信美術会会員にご推挙下さいまして、ありがとうございます。この感謝の気持ちを忘れることなく努力してまいりたいと思います。どうぞよろしくご指導下さいますようお願い申し上げます。

新会員となつて

2部 澤柳喜久子

会員に推挙していただき大変嬉しく思います。美しい安曇野をスケッチしたいと思ったのが絵を描く始まりで、下條先生、宮島先生のご指導のもと「壁」をテーマにして六回入選、更にK氏賞を頂き感激致しております。これからも初心を忘れず努力を重ねていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

**会員に推挙されて**

2部 中沢美恵子

会員推挙ありがとうございます。

「会員」という言葉、一種独特な重みがあり絵の世界に一步踏み入った感があります。教室の先生にも恵まれ、又、私の人生常に絵画というものに接点がありました。しかし描くことに於いては、まだまだ未知の世界、納得できる所までは到達出来ませんが、皆様の刺激を受けさせて頂きたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

新会員になって

2部 濱本ゆり子

中信美術会会員になることが目標でした。今回目標が達成でき大変嬉しく感激しています。

これからもこの感動を忘れる事なく、絵を描き続けていきたいと思ひます。もっともっと学び楽しんでいきます。

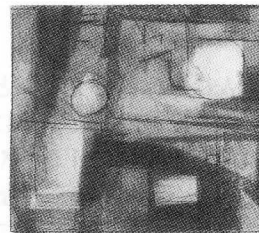
美しいものを求めて…

2部 原田 正

自己流で描いてきて、公募展に応募することもなかったのですが、木曾作家協会へ加入のお誘いを受けて、四年前初めて出品しました。

「どこでも見受ける当たり前の風景の中にひそむ美しいものを見つけたい…」と言われた山下大五郎

氏の言葉に誘発され、自分なりの美しいものを求めていきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

**霧の中で**

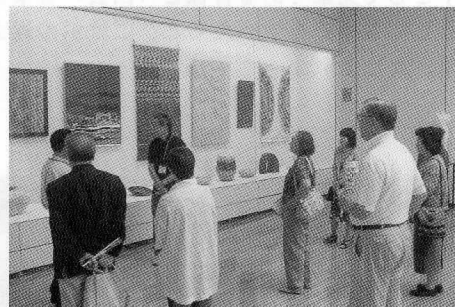
2部 二木眞三郎

習い始めて五年目、私も八十才になりました。

教えて頂いた諸先生方始め、教室のカタクリの皆さんに、感謝の言葉もありません。

いまだ五里霧中の真中ですが、知らなかったものが見えたり、一つでも自分のものになればと、思っております。

この度、新会員にさせて頂いた事を機会に、私だけの小さい世界ですが頑張ります。

**新会員のことは****会員に推挙されて**

2部 中沢美恵子

会員推挙ありがとうございます。

「会員」という言葉、一種独特な重みがあり絵の世界に一步踏み入った感があります。教室の先生にも恵まれ、又、私の人生常に絵画というものに接点がありました。しかし描くことに於いては、まだまだ未知の世界、納得できる所までは到達出来ませんが、皆様の刺激を受けさせて頂きたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

新会員になって

2部 濱本ゆり子

中信美術会会員になることが目標でした。今回目標が達成でき大変嬉しく感激しています。

これからもこの感動を忘れる事なく、絵を描き続けていきたいと思ひます。もっともっと学び楽しんでいきます。

美しいものを求めて…

2部 原田 正

自己流で描いてきて、公募展に応募することもなかったのですが、木曾作家協会へ加入のお誘いを受けて、四年前初めて出品しました。

「どこでも見受ける当たり前の風景の中にひそむ美しいものを見つけたい…」と言われた山下大五郎

新たな一步

2部 北條知世

先輩の皆さまが築きあげてこられた伝統ある中信美術会会員にご推挙いただきありがとうございます。

先生のご熱心なご指導を頂き、先輩の皆様の励ましのお蔭と感謝しております。

会員として、「新たな一步」を踏み出しました。会員のひとりとして恥じないよう、更なる精進・努力して参りたいと思ひます。

どうぞ宜しくご指導の程お願ひいたします。

心に残る絵を

2部 山浦廣海

この度、中信美術会の会員として、お仲間に入れていただきました。名だたる先生、先輩方と一緒にということで身の縮む思いです。そんな中で何とか自分らしい絵が描けたらなあという思いで努力したいと思ひます。

山紫水明の美しい信州・安曇野に生まれ、育てられた私ですので、これからもすばらしい風景を中心に描き続けたいと思っております。よろしくご指導をお願い致します。

決意

3部 丸山と志江

人様の作品を見ることは大好きです。しかし自分で作る段になると途端に億劫になってしまい、周りの仲間や先輩に「さあやろう」と背中を押されないと、なかなか始められない私です。

今年、会員に推挙していただいたことを何よりの後押しと思って制作に励んで参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

出会った全ての人に感謝しつつ

4部 奥寺 翠

若輩ゆえにまだ未熟さの目立つ己ではありますが、続けて行く事で何らかの「形」に成ってくれたらと願い、これからも日々作品と向き合い、若僧ながらではの好奇心を大切に、今の自分を深めてゆきたいと思います。

作り手として先輩である皆様との出会いも楽しみに、人としても多くを学べたらと、ご教示の程よろしくお願い致します。

新会員のことは

新会員になって

4部 木下紀子

中信美術会会員にご推挙を頂き、大変嬉しく思っております。

私は糸や裂き布で手織作品を作って美術展に出品してきましたが、幸いにも会員の仲間に入れて頂けたことは大きな励みになるとともに、その重さを強く感じております。

今後はこれを糧として精進していきたいと思しますので、何卒宜しくお願い致します。

身をひきしめて

4部 古屋洋子

この度は新会員にご推挙いただき誠にありがとうございます。たいへん光栄であると共に、皆様のご支援なくしては得られなかったこの名誉に、更なる精進を心に決めた所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



第66回中信美術展企画

ギャラリートーク
ナイトミュージアム

ギャラリートーク
(第1回)

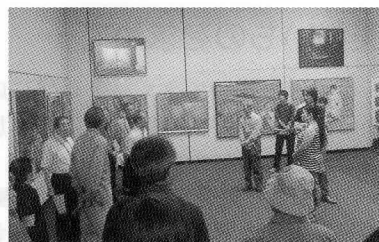
6月29日(土) 中信展オープンの日の午後2時から、昨年よりはるかに多くの出品者、来場者の参加でスタートしました。各部の会場で審査員から、本年のポイントなどの解説をうけたり、意見や質問交換が活発に行われました。2部は参加者が多く2班に分かれて実施されました。

はじめはもじもじしていましたがすぐに展示仲間の気分も出てきて熱気ある発言が交わされました。タイムオーバーになり、このつづきは「ナイトミュージアム」第2回ギャラリートークでとなりました。

出品された90才の貴婦人にも審査員と担当の委員の方々がていねいに対応し感謝されていました。「落作品にコメントありがとうございます」でした。67回展はもっとたくさんの参加になることを期待します。

ナイトミュージアム
(第2回ギャラリートーク)

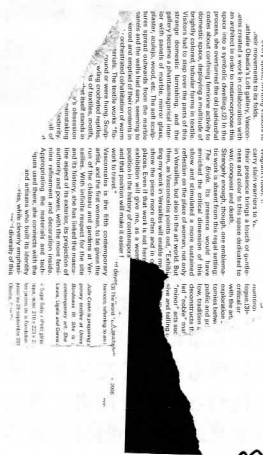
中信展開催中の7月5日(金)、静かな夕べまだ明るい美術館で「ナイトミュージアム及第2回ギャラリートーク」がはじまりました。今展2回目のギャラリートークとして、イベント情報でアピールされたため多くの研究熱心な出品者が1回目について参加されました。自分の作品の思いや、審査員への質問、好きな作品に対する意見交換、審査員のコメントなど熱心に交わされました。夜8時過ぎ、司会者がストップをかけるまで熱の入ったギャラリートーク・研究会になりました。次回展もきっと盛会になるでしょう!



「ワークショップ」を通して思うこと

梶田 千秋

今年も松本市美術館と中信美術会が開催した「ワークショップ」にかかわらせていただきました。小学生からお年寄りまで幅広い世代の方々に参加していただくことができました。あまり馴染みのない“アクリル画”だと思いますが、油絵具とは違う即乾性や重ねて塗れる特性を思い思いに実践を通して限られた時間の中で完成し、美術館に展示できるという達成感も味わえたと思います。参加者の皆さんの感想も「思った以上にきれいにできた」「色を重ねたり削ったりして思いがけずアートが味わえて楽しかった」などと好評でした。「うまく描けないから…」「苦手だから…」と敬遠されがちなアートの世界ですが、まずは地域・市民の皆さんと、このように身近な触れ合いから親しんでもらうことにより“描くことの楽しさ”“偶然から見出される個性”等を皆さんと共有できる機会ととらえ私たち会員にもいい学習の場となったことをうれしく思います。



夏季美術講習会から

講師 中山 邦彦

今年も多く参加者が五日間モデルと対峙し、一枚のデッサンに熱く挑みました。そしてそれぞれに納得のいく勉強ができたように思います。

ただ立体造形追求者の立場から毎年思うことは、もっとモデルの内側を感じて描いてほしいということです。

物の存在の仕方にはそれぞれ固有の特性があり、それを感じ取って光と陰でその実在性（リアリティー）に迫ろうとする表現活動がデッサンといえるでしょう。

それには、モデルの外観を的確にとらえることも大切ですが、もう一方、重心の位置とバランス、力のかかりよう、骨格や筋肉の動き、魂とその動勢感、生身の人間等々の内のデッサンを更に意識的に捉えて表現に生かしたいものです。

つまり、どう表現するかの前に、モデルをもっと徹底して内側から観る見方がほしいと思います。



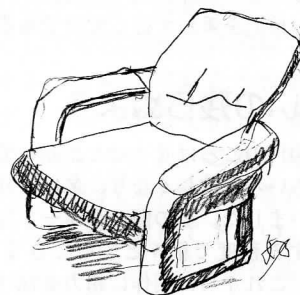
講師 丸林 俊二

本年度の夏季美術講習会は、前年度に比べ受講者が減ってしまい少し残念でしたが、受講された皆さんは、ゆったりとしたスペースで制作することができ良かったのではないのでしょうか。指導する立場からする

と、人数的には本年度位がほぼ適正な受講者数だったと思います。

モデルさんも若々しく、美しい方に恵まれました。執行部の方々とモデルさんも一緒に食事やお茶をいただいたのですが、モデルさんは性格も素晴らしい方で、気持ちよく講習ができました。また執行部の方々には休憩時間においしい物を用意していただくなど、細やかな心遣いをしていただき大変感謝しております。

本年度の講習会で特に印象に残ったのは、高校生や20代位の若い方々がたいへん頑張り、非常に進歩したことです。指導した事に対する吸収が素晴らしく、これからも美術を続けて行ってくれるだろうとの期待感が持てました。また会員の受講者の方々も、基本的には1つの作品に対して5日間追求していただき、完成度の高い作品に仕上げられた方が多かったように思います。



会員のおもひ

絵を描くということ 1部 沖みどり

以前、週に一回は不安な夢を見ていた。子供の私は夕方の学校にいたり、お使いからの帰り道だったり。薄暗くなるのになかなか家へ辿り着けない夢。

五年ほど前、実家の近くの古い食堂が昔と変わらず営業している事に気が付き驚いた。懐かしさもあり、傾きかけた外観も面白くてスケッチをした。子供の頃、忙しい親に代わって弟を医者に連れて行くのは私の役目だった。コンビニもない時分、初冬の夕暮れ時はこんなお店の小さな明かりが心強かった。そんなホッとする暖かい雰囲気のを描きたい。

結局できた絵は私の力が足りず、ゾッとするお化け屋敷のようになったけれど、今までにない満足感・達成感があった。

それ以降、不思議なことにあの不安な夢は一度も見えない。絵画療法というほど大袈裟ではないが、私にとって絵を描くという事は、考えている以上に奥深く大切なことかもしれないと思う出来事だった。



2部 浅川初幸

25年前、病気で3年ほど休職中、治療の見通しが無い失意の中でたまたまテレビの趣味講座を見て油絵を知った。初めて10号作品で中美展に出品し落選した事実がある。落選作

品を搬出した時の恥しさは忘れられない。現在は100号を年間3枚描く様になり昔の苦い思いも笑い話になった。私には絵画技術や絵作りの秘密などない。描き続ける中で学んだ事は、①失敗や描き直しを恐れない②批評や人の作品から学ぶ③今、持っている力量を出し切る④失敗なんて当り前決してヘコタレない。この自分なりの原則を心に秘め、ひたむきに無欲でまじめにコツコツと信念をもってこの道を切り開いて行きたいと思っている。会場では私の知らぬ間に作品を見て下さる方がいる。決して手をぬいた作品は発表出来ないと強い思いがある。この世界に人生を懸けています。これからも精一杯の精進を重ねて行く覚悟である。

悔いの残らぬよう 3部 清沢龍美

30代のころはせっせと出品していましたが、その後はいろいろと忙しくなり、名ばかり会員の状態が続いてしまいました。その間、グループ展にかろうじて年1作出品する程度で細々とやってきました。この3月で退職し、これからは制作に精力を傾けるとともに、会員としての務めも果たして参りたいと思っています。

この夏、県展に向けて久しぶりに制作に没頭することができました。これは面白いと思う題材を見つけ、毎日わくわくしながら慎重に形にしました。石膏取りでは技術的な困難を克服しながら、やっと形にすることができました。それなりに達成感は感じたところですが、一方で、自分はまだまだ初歩的なレベルにあるということも分かります。

体力・気力・感性を保ちながら、残された10~20年を、悔いの残らぬよう、彫刻制作に励んでいきたいと思えます。よろしくお願ひします。

この頃

4部 若林理代

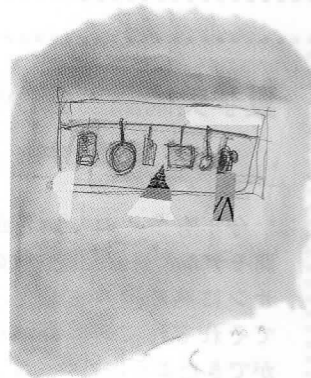
環境というものに感謝をしている。

環境とは色々あるが、まずは育った場所の環境である。作品を制作するにあたり、自分が育った環境というのは多かれ少なかれ誰にでも影響していることではないだろうか。

私は筑北村に生まれて大学生活を送った時間以外は今のところこの土地に住んでいる。身近に四季を感じ、自然豊かな場所である。小さい頃、遊びながら感じた事や今、農作業をしながら考える事など、陶芸を制作するにあたって育ってきたこの環境は創作の基盤となっている。最近の制作する形は角のあまりない丸いフォルムの作品を制作することが多い。丸いフォルムは昔から好きで私にとって落ち着く形である。質感は農作業をしていて気になっている事がそのまま制作に反映されている。そう思うと私の作品は単純に原風景が一部具現化されたモノなのかもしれない。

もう一つの環境は出会った人や制作できる環境だ。高校は美術コースのある高校に通い大学は関西の方の芸術大学で陶芸を専攻していた。大学を卒業し五年以上経つが、大学の何十人という友人の中で今も作品を制作し続けているのは高校の友人と合わせても片手で数えられる程である。仕事に追われ制作の時間が無く、制作できる環境に苦慮している声や悩みを多々聞く。その中で今でも制作できる場や出品できる場があるというのはとてもありがたいことだ。それは場所だけでなく、今まで出会ってきた人や、応援してくれている周囲の方々が環境を作ってくれたおかげでもある。それは感謝してもしきれないほどである。

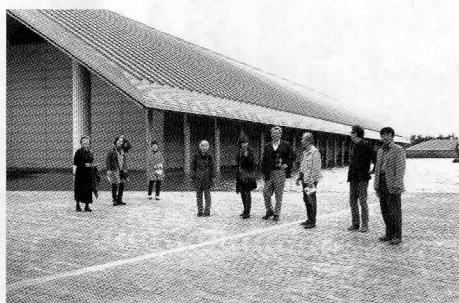
今後もこれから出会う人や過ごす環境などによって制作するモノが変化していくことだろう。それが良くも悪くもどうなるかは分からないが少しずつでも自分の好きな陶芸の制作はしていきたいと考えるこの頃である。



近江路紀行—執行部研修旅行—

今年度の事業も会員交流会を残し、愈々総まとめの段階になった10月、一年間展覧会・委員会・講習会と諸行事の準備などで多くの時間を共有した執行部員10名が滋賀・湖北の旅をしました。

早朝に出発した一行はまず奥滋賀のひっそりとした古寺の観音様や如来像を拝顔、見上げれば参道を包むように茂る楓の葉の群れ。心配した台風一過の秋空からは柔らかな陽射しが。紅葉には1カ月ほど早いためまだ濃い緑ではあったが頭の中で赤く染まった風景を想像しながら歩いた一日でした。夜は美味しい近江肉を賞味、言うまでもなくお酒も、そしてそれに合う鮎ずしも堪能。翌日はようやく制作者の顔に戻って、大津の佐川美術館へ。絶好のロケーションにあるこの水の美術館はいつ行っても静かな佇まいで我々を迎えてくれます。楽吉左衛門館は楽さんの豪放磊落な茶入れと土田半四郎さんの既成概念を打ち破るお仕服、上原美智子さんの天女の羽衣を思わせる繊細な織物とのコラボレーションによる素敵な世界が展開されていました。少し風があったせいか建物を取り巻く水池が太陽をきらきらと反射し、壁にゆら



佐川美術館にて

平成25年度 会費未納会員へお願い

中信美術会、信州美術会の両会員の方		振込先	
中信美術会費	12,000円	郵便振込口座 (筑摩郵便局)	
信州美術会費	6,000円	番号	00540-7-46278
計	18,000円	加入者名	中信美術会
中信美術会の会員の方		銀行振込口座	
中信美術会費	12,000円	(八十二銀行 信州大学前支店)	
計	12,000円	店番	421
		口座番号	普通 33-656
		受取人	中信美術会

会計 松村栄美

〒399-8102 安曇野市三郷温789-2 TEL・FAX 0263-77-6374

ゆらと動く形をつくっていて、これも絶妙でした。その後は瀬田川河畔の石山寺へ。名前の通り巨石と階段が沢山あるお寺でここも紅葉の名所、紫式部が源氏物語を執筆した場所とも言われ、それなりに観光化したお寺でした。

旅の終わりは少しさびしいもの、そろそろ里心がついた一行は、途中のドライブインで柿の葉寿司を買って半分居眠りをしながらそれぞれ家族のもとに帰りました。

何時の頃からか、一年の締めくくりに執行部研修旅行をすることが恒例となっています。過ぎてみれば忙しくはあったけれど、楽しいことが沢山あった今年の執行部一同でした。

会員の皆様には、ご協力頂きまして有難うございました。来年も宜しく願いいたします。

(森本啓子記)

編集後記

❖2013年秋、大きな出来事は消費税が2014年から8%となる決定がされた。私たち制作者も材料費等に影響を受ける。しかし、サイズを小さくしたり、絵の具を薄塗りにしようとする輩は誰もいないだろう。消費税は変わっても表現は変わらないのだ。

❖お正月の中信展開催が決定された。寒い準備のその後のお楽しみは、お屠蘇を飲んでの鑑賞だと思っているのは私だけかもしれない。ヨーロッパでは冬の展覧会が定番だとか。

❖会報は何時の発行がいいのだろうか？正月の中信展となると春の発行かな。否、秋がいいのか。夜長はいろいろなことを考えてしまう。会の皆さん、原稿ありがとうございました。

(浅川正章記)

〈会報編集委員〉

浅川 正章 伊藤由紀子 細田 啓子
三原 好清 森本 啓子 深井 公
〈受賞・新会員作品写真編集〉
古畑 陸弥

中信美術会ホームページ

中信美術会の歴史、先輩諸氏の含蓄ある話、会員情報、中信美術展の詳細など情報を満載しています

address <http://chubi.b.la9.jp> あるいは 中信美術会

会員のみなさんの個展、グループ展の情報など事務局までお知らせください

中信美術会事務局 〒399-8301 安曇野市穂高有明1689-6 矢野口靖方 ☎0263-83-8770

藤澤幸雄さんを偲んで

白木總一

50年近く前になりますが、職場で始めた絵画クラブは、社員も経営者も一緒になって仕事が終わってから会議室に集まって花や壺などを描いていました。当時から藤澤さんは会社役員でしたが、そのころは油彩で花器などの静物画を、確かな質感で表現しており、今でもその作風が目につかびます。

中信展・県展・中央展（新象展）への出品は、20年近く経ってからでしょうか。このころは画風がガラッと変わり、アクリル盤にシルクスクリーンを応用した独創性のある平面版画となりました。

た。版を複数重ね合わせて幾何学模様などを丹念に掘り描き、視点が変わる複雑な絵画表現で観る者を魅了したものと思われます。その成果は中信展・県展・新象展などでの受賞が証明しています。元来、芸術性に対する趣味・興味は旺盛で、小間物から始まり、他作家の作品収集まで。また、陶芸制作にも関心があったようです。

会話時のにこにこ顔が印象的です。衷心よりご冥福をお祈りいたします。 合掌

— 電算印刷役員として会報発行にご尽力いただきました。—
(会報編集部)

●平成25年11月8日 会員交流会●

中信美術会会員交流会が開かれました！

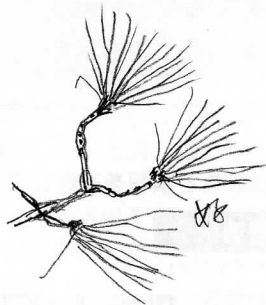
1年に1度、中信美術会会員が一堂に集まり会員同士の絆を深める目的で昨年から実施されている会員交流会、今年も11月8日(金)にまつもと市民芸術館2Fのレストラン「Say-井」で開かれました。集まった総勢75人の会員が和気藹々と過ごした2時間余りは、「時の経つのを忘れる」とはこういうことかと思えるほど楽しい時間でした。委員長挨拶のあと今年逝去された会員の方々に黙祷をささげ、新会員の紹介、つづいて乾杯のご発声を頂いた顧問の西澤先生から「かつてはこういう席でキュービズムかフォービズムかと丁々発止の議論もあった。こういう場で大いに胸襟を開き、心の栄養をたっぷり吸収して、また個々の制作の場に戻る…そういう機会です」と貴重なお言葉を頂きました。たっぷり取ったフリータイムでは、あちらこちらで談笑する姿があり、陽気な雰囲気、会場いっぱい広がっていました。執行部が色々趣向を凝らしたお楽しみ抽選会ではアラ



ブの大富豪と奥方に扮した執行部員がくじ引きをし、ユーモアたっぷりに豪華賞品を贈る姿に爆笑の渦が…秋の夜は長く、いつまでもおしゃべりが続いていました。

来賓もなく、いわば身内だけの集まりだからこそその気楽で楽しい会でした。400名あまりの大所帯の美術会なので、名前を知っていても実際には行き会う機会はそう多くはありません。せっかく志を同じくして中信美術会に所属している仲間同士、ジャンルを超えて新たな世界が広がる良い機会です。この交流会を通じてより大きな仲間の輪を広げていくこと、これこそがこの企画の一番の目的です、今年参加されなかった皆さんもぜひ次回は参加して下さい。

(執行部)



2013 第66回 中信美術展受賞作品

1部 日本画



中信美術会賞
「遠い日」清水美智子(一)



信濃毎日新聞社賞
「川沿いの家」甕好孝(会)



A氏賞
「秋の終わりに」中川千種(一)



額縁のタカハシ賞
「本能」細井大騎(一)

2部 洋画



中信美術会賞
「Rainy Day」高柳高弘(一)



松本市長賞
「桌上的詩」抜井美江(会)



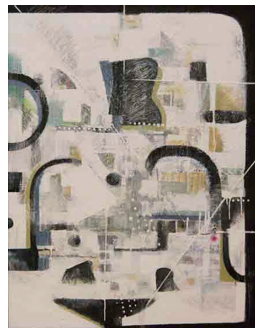
松本市美術館賞
「生きる〜待つこと」小川耀平(会)



新人賞
「倉庫」百瀬加奈子(一)



新人賞
「自転車」古瀬和貴(一)



松本商工会議所会頭賞
「ECO」向井和子(会)



(一社)松本芸術文化協会賞
「そして・これから」湯川恵子(会)



(一社)松本芸術文化協会賞
「螺旋階段」長田敬之(会)



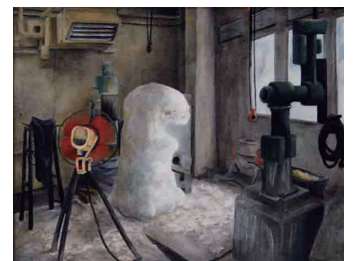
信越放送賞
「和田宿の腕ポンプ」柳千晴(一)



テレビ信州賞
「画室」丸山島子(会)



長野朝日放送賞
「バランス」沓掛隆(会)



市民タイムス賞
「作業場」鈴木花奈子(一)



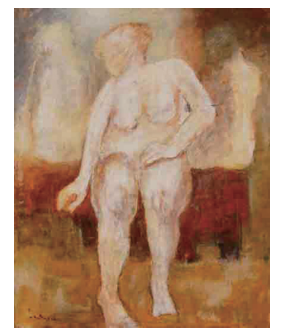
テレビ松本賞
「桌上的ヒマワリ」野田真由美(会)



A氏賞
「ひだまり」池原妙子(会)



K氏賞
「ウォールPart VI」澤柳喜久子(会)



こばやし画材賞
「Something」古畑睦弥(会)

2部 洋画



シナノ画房賞
「アトリエ一隅」 浅川初幸 (会)

3部 彫刻



松本市美術館奨励賞
「HITO夏2012」 山崎 亨 (会)



新人賞
「Hひとつの背中」 西澤 桂 (一)



A氏賞
「Touch Space」 越山明都 (会)

4部 工芸



松本市美術館奨励賞
「緑 流」 有賀志保 (会)



長野県民芸協会賞
「水 辺」 木下紀子 (一)



(一社) 松本芸術文化協会賞
「総織部溪流」 仙名清志 (会)



市民タイムス賞
「雨 音」 片桐秀和 (一)



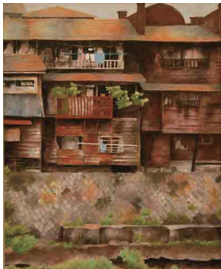
A氏賞
「春告げる風」 木村まゆみ (一)



K氏賞
「青 海」 山田聖巳 (一)

新会員作品紹介

1部 日本画



「河ぞいの家」
山田京子

2部 洋画



「Rainy Day」
高柳高弘

2部 洋画



「もの思い」
大原貞子

2部 洋画



「早春の白馬三山」
岡本綾子

2部 洋画



「草の園」
栗幅佳代子

2部 洋画



「つつじ咲く里」
佐藤豊子

2部 洋画



「ウォールPartVI」
澤柳喜久子

2部 洋画



「森にたたずむ池」
中沢美恵子

2部 洋画



「飯盛山夕照」
原田 正

2部 洋画



「ランチタイム」
濱本ゆり子

2部 洋画



「喝」
二木真三郎

2部 洋画



「水門IV-1」
澤柳喜久子

2部 洋画



「木漏れ日」
山浦廣海

3部 彫刻



「あたたかな予感」
丸山と志江

4部 工芸



「青の時間」
奥寺 翠

4部 工芸



「水 辺」
木下紀子

4部 工芸



「出 発」
古屋洋子